

ガイコツとのあくしゅ

京都府 国立京都教育大学附属京都小中学校初等部三年

植松 岳

ひやあ！

つめたい手

ひやあ！

何どもあくしゅがしたくなる手
理科室のそうじが楽しくなった

早く八週間たたないかな

れいぼうをつけていないのになぜつめたい？
と聞くと

「てつでできているからちやう？」
と言う

ぼくは本当かなと思った
時によつてつめたさがちがう
サッカーをやつた後でも
本をよんだ後でも
友だちとしやべつた後でも
でも

いつでもぜつたいつめたい手
おもしろい手

早くそつじ当番やつてこい
早くあくしゅがしたい

大好きなの手と

早く

いつぱい

あくしゅがしたい

ひょう本のガイコツとのあくしゅ

一しゅんのプラネタリウム

京都府 国立京都教育大学附属京都小中学校初等部三年

大柿

優

雨の朝

改札口を出て電車にそつと乗りこんだ

せきにすわり

まどの方を見た

すると雨がふっていたからか

水できがついていた

やがて電車が発車すると

まどに向こうに

光が走った

もう一ど

まどを見ると

水できに光が走り

一しゅんで

とても小さな

プラネタリウムみたいに

なつていた！

そこには

たくさんの乗きやく

ポスター

あみだな

エアコン

回るかん気せん

緑色のぎせき

あん内の
パネルが回転して映つている

そして

車内アナウンスが

ひびきわたる様に

聞こえる

水できの

一つ一つに

それらがうつる

はつと気づくと

そのプラネタリウムの向こうから

友だちの目がのぞきこんでいた

天と地をつなぐすべり台

京都府 国立京都教育大学附属京都小中学校初等部三年

山田 心温

今日は 雨
でもやつとあがつた
私は家から外に出て
空を見上げた
そこには
にじがかかつていて
それは天と地をつないでいる
すべり台みたいだつた
私は
にじがかかつた日
いつも
いなくなつてしまつた
ひいおばあちゃんの
ことを考える
ひいおばあちゃんは
日だまりのような人だつた
いつしょに
あそんでいると心が温かくなつた
ひいおばあちゃんのへやに入ると
ひいおばあちゃんの
やさしいかおりがして
いた
いつしょに
ごはんをたべたりした
いろんな思いでが
よみがえつてくる
にじのすべり台を
さか上りしていつたら
ひいおばあちゃんに
会えるかな

そうじき

京都府 国立京都教育大附属京都小中学校初等部三年

西浦 純音

そうじがはじました。

ゆか、つくえの下

いろいろな所でそうじきが
ゴミを食べている。

「ウイーン。」

「ウイーン。」

「あ！」

わたしの人形、弟のおもちゃ
いろいろおちていてる。

「ウイー。」

「ウイー。」

ママにつかまっている人形が、
なきそくな目になつていてる。

「たいへんだ。」

「ヴィー！！。」

「ヴィー！！。」

そうじきが、

うなりおこつていてる。

「たすけに行かなくちや。」

(岩出市長賞)

書道

和歌山県 和歌山市立西脇小学校六年

三尾 美月

書道とは自分の鏡だ
イライラしている時、
おこっている時、
すみがにじんだり、
失敗する

気持ちが高ぶっている時
字がさだまらない

気持ちが落ちついている時
一番自分らしい字が書ける

生き生きした字
伸び伸びした字

元気のある字
いきおいのある字

私の字、もう一つの私

いつかだれかに

私の書道

伝えたい

(日本現代詩人会会長賞)

弟が見た冬のゆめ

京都府 国立京都教育大附属京都小中学校初等部三年

三浦 蒼矢

弟はすごいゆめを見たらしい

弟が話してくれた

大雪がふつていて、そしてじいーと
見ていたら、かつてにつもつた雪が
雪だるまになつたんだ。

すべて雪がなくなつても

ずうーつとずうーつとふつて。

ついには家の外も家の中も

雪だるまだらけになつちやつた。

でも家の中は温かいから、どんどん

とけちやつて、ついには水だらけになつた。
だから、とても時間をかけて

すべての水をぞうきんでふきとつた
でももう一つ問題が、それは

家の外の何百こいや何千この雪だるま
しかし、それは外が温かくならないと
雪も雪だるまも一生とけない
だけどそれにもかかわらず

ずうーつとずうーつと

雪がふつていた

という所で弟はゆめからめざめたらしい

次の日もゆめを見た弟
またまた話してくれた

今回も冬のゆめだよ

朝おきて下にいつたら

冬だけどめずらしく雪がふつていなかつた。

次の日、ちよつとねぼうをしてしまつた。

まどを開けると、大雪がふつている。

だけど下におりると雪はやんだ。

ふしぎだなと思つた弟。

また上にあがつたら

またまた大雪がふつた。

ずっと考えていたら

時間がきてしまい朝ごはんを

食べずにようち園に行つた弟だつた。

そのまた次の日もゆめを見た弟

今回も三日れんぞく冬のゆめ
弟がかつてにしやべりだした

今回はね、気温のゆめ

夜ねる時冬だとはかんじられないほど
あつくてあつくて

服をぬごうと思つたけど

朝さむかつたらいやだと思つたから
服をぬがずにねたんだ

そしたら朝もあつくて

かぜをひいてしまつたという
ゆめを見たらしいよ

(日本詩人クラブ会長賞)